

私たちはボランティア精神のもと
「市民後見人」として、地域社会に貢献することを目指します。

会報/市民後見人の会 No. 160

2021年3月21日発行 通巻No.170号

創刊2007年2月26日

発行/特定非営利活動法人 市民後見人の会

〒140-0014 東京都品川区大井 1-15-1 品川成年後見センター分室3階

TEL: 080-3912-3259 (通話専用 月～金曜日の10時～16時の間対応します。)

TEL&FAX: 03-6303-8265

◆賢い患者を目指そう◆

3月8日、コロナ禍の下、密を避け席の配置を考慮した上で、次のとおり本会会員・石森陽子さんによるスピーチが行われました。

「やしおカフェ」(令和2年度品川区認知症カフェ助成事業)

主催: 八潮みんなでまちづくり 共催: NPO 法人協働まちづくり

場所: こみゅにていぶらざ八潮

講師: 石森陽子

議題: 賢い患者を目指そう!

自身もいくつかの病を抱えながらも元気に活動を続けている石森さんが、長年の看護師長としての経験を踏まえ、参加した高齢者の方たち(10名)に、「賢い患者とは。患者として気を付ける事」をテーマに、「○病気の自覚がある○受けたい医療を考える○思いを言語化する○協働とコミュニケーション○一人で悩まない○かかりつけ医を探す○自覚症状・記録したもの(日頃の体調変化、血圧測定値、排尿回数、食事内容等)を受診時に持参する、等が大事」と話されました。

最後に、「①病院やクリニックだけが医療ではない。予防から終末期まで継続的に日常生活維持を、日常生活習慣の自己管理が基本②プロである医師に『お任せする医療』ではなく、病気に対して素人である患者が主体的に参加する『患者中心の医療』を目指すことが大事」とまとめられ、充実した1時間でした。



◆2020年度2月度理事会報告◆

1. 開催日時 2021年2月15日(月) 15時30分～17時00分
2. 開催場所 品川区社会福祉協議会10階会議室(ボランティア活動室)
3. 出席理事 朝倉鈴子、内山恵子、大金修、金城清、古賀忠壹、斉藤裕二、杉谷徹夫、杉山麻里子、
高原三平、馬庭俊一郎各理事 (理事総数 10名)
4. オブザーバー 國枝園子、小松統各監事 (敬称略)
5. 議事

<協議事項>

- ① 2021年度事業計画・予算案について別添資料により協議した。
- ② 新型コロナにつき、緊急事態宣言延長による対策案(12月21日発信分を含む)を別添資料により協議し、全会員に周知することとした。
- ③ 品川区が提案した「品川区成年後見制度利用促進基本計画(素案)」について協議した。

<報告・連絡事項>

- ① 各部会に対し2020年度事業報告・決算案提出依頼があった(3月8日までに)(高原)
- ② 2020年度市民後見人養成講座中止について(古賀、杉谷)
緊急事態宣言下での開催は、社協、区の意見を勘案して中止することとした。助成金は全額返金する方向で社協と調整する。
- ③ 36号死亡について以下の通り報告があった。(高原)
2021年1月28日、老衰にて入院先の病院で死亡。間接的な死因として新型コロナ感染症陽性者であった旨、死亡診断書に記載され、コロナ対応火葬となった。
- ④ 「経理細則」制定に伴う関連細則の改正について別添資料により報告があった。(高原)
- ⑤ 会報2月号について概要報告があった。(金城)
- ⑥ 中野区民の後見人等候補者に本会がなる場合の問題点等について、品川区社協と打合わせた報告が別添資料によりあった。(高原)

<今後の予定>

- ・3月22日(月)月曜カフェ ・3月27日(土)情報交換会 (記 高原三平)

首都圏1都3県の緊急事態宣言は今日24時で解除されますが、まだまだ「ステイホーム」の状況です。少し前の記事ですが『週刊朝日』(2020・11・20)「マリコのゲストコレクション」で精神科医の和田秀樹さんが次のように語っています。「精神科の立場から言うと、外に出ないで日光に当たらないとセロトニンという神経伝達物質の分泌が減るからうつになりやすくなるんです。僕は老年医学もやっているんですけど、お年寄りの閉じこもり生活は足腰が弱くなるし免疫にも悪いし心にも悪いし、脳の機能を弱めたりする」。なる程と思いました。これから桜の季節です。人込みを避け太陽に当たりながらゆっくり散歩を楽しみたいものです。

(編集 金城 清)